

台風が来て慌てる前に!

お問い合わせ 市民防災室 ☎861-1102



これからの季節、特に、立春から数えて210日にあたる9月1日頃は、昔から「二百十日」と呼ばれ、台風襲来の時期として、暮らしの中で厄日として警戒されています。

台風は、自然災害の中でも予報などで到来が予測できることから、「減災」できる災害と言われています。しかし、予測できるからと言って安易に考えてはいけません。5月28日に沖縄本島を直撃した台風2号は、各地で5月の最大瞬間風速としては観測史上最高値を更新し、農作物や建物などに甚大な被害をもたらしました。

台風襲来時に被害の軽減を図るためには、市が行う防災対策だけではなく、市民のみなさまの防災対策が不可欠です。日頃から災害に対する心がけを持って、台風シーズンに備えましょう。

台風が近づいてきたら、早めの安全対策が必要です!

高潮に注意!

- 1 テレビやラジオの気象情報に注意する
- 2 早く帰宅し、家族全員と連絡を取り合う
- 3 停電に備え、懐中電灯、ラジオを用意する
- 4 トタンや看板など風で飛ばされそうな物は固定する(左下図参照)
- 5 崖、傾斜地、造成地など土砂災害の危険な地域は、いつでも避難できる準備をする
- 6 近くに河川があれば水位に注意する。浸水の恐れのある所は、土のうなどを用意し、家財道具などを高い場所へ移動させ浸水に備える
- 7 飲料水・食料を3日分ほど確保する
- 8 非常持出品を準備する

※5月に配付した防災マップの「非常持ち出し品チェックリスト」を参考に



台風接近時には、6メートルを超える高波が発生することがあり、高潮と重なると海水が防波堤を乗り越え、浸水害を増大させます。実際に、1999年9月に日本各地を襲った台風18号によってもたらされた高潮では、熊本県不知火町(現在の宇城市)で12人の方が犠牲となっています。四方を海に囲まれた沖縄県。台風の時には、



市民防災室からのお願い

台風や地震などの震災が発生したときに、その被害を最小限に抑えるためには、「自分の安全は、自分で守る」という防災対策の基本の下、自分の手で自分・家族・財産を守る、備えと行動を指す「自助」。自分で出来ることは自分で、一人で出来ないことは地域や仲間、そしてみんなの助けあいで補う考えや行動を指す「共助」。

警察、消防、市役所などの行政機関や電気、ガス、水道などの公益企業が、災害支援活動を実施する「公助」。それぞれが、災害対応力を高め、連携することが大切です。「自助」「共助」「公助」を基本に、市民のみなさまと市および防災関係機関が、それぞれの役割と責任の下に相互に連携・協働し、防災対策を着実に実行し、安心・安全に生活することが出来る地域社会を実現しましょう。



ワンポイントアドバイス!

貯水タンクが屋根にない方は、停電に備えて水を確保しよう!



高潮・高波にも十分注意し、高潮・高波のおそれのあるときは、早めに海岸や河川から離れた場所に避難しましょう。

※台風や低気圧の接近などにより気圧が下がり、海面が盛り上がり、海面は約1センチ上昇します。

※高潮について詳しくは防災マップの「高潮浸水予測図」をご覧ください。

台風時の避難場所

台風や高潮時の避難場所は、次のとおりです。

- 那覇地区 若狭公民館/若狭 2-12-1 ☎891-3446
- 首里地区 首里公民館/首里当蔵町 2-8-2 ☎891-3445
- 石嶺公民館/首里石嶺町 2-70-9 ☎891-3447
- 小禄地区 小禄南公民館/高良 2-7-1 ☎891-3444
- 真和志地区 市民会館/寄宮 1-2-1 ☎855-5081

とても便利!防災情報配信サービス

【無料気象情報自動配信システム】

メール登録をすると、市内の各種気象警報や災害に関する情報などが、携帯やパソコンに自動的にメールで送信されます。

メール登録/(携帯電話)右記のQRコードまたは、
<http://dim2web09.wni.co.jp/nahacity/bosaimail/index.html>
 からアクセスして、登録してください

